



# Web グラフィカル ユーザー インターフェイス の使用

---

- [Web GUI の使用に関する前提条件, 1 ページ](#)
- [Web GUI の使用に関する情報, 1 ページ](#)
- [Controller のコンソール ポートの接続, 3 ページ](#)
- [Web GUI へのログイン, 3 ページ](#)
- [Web モードおよびセキュア Web モードの有効化, 4 ページ](#)
- [Controller Web GUI の設定, 5 ページ](#)

## Web GUI の使用に関する前提条件

- GUI を使用する PC では、Windows 7、Windows XP SP1 以降のリリースまたは Windows 2000 SP4 以降のリリースが稼働している必要があります。
- controllerGUI は、Microsoft Internet Explorer バージョン 10.x、Mozilla Firefox 20.x、または Google Chrome 26.x. と互換性があります。

## Web GUI の使用に関する情報

Web ブラウザ、つまり、グラフィカル ユーザー インターフェイス (GUI) は、各 controller に組み込まれています。

サービス ポート インターフェイスまたは管理インターフェイスを使用して GUI にアクセスできますが、サービス ポート インターフェイスの使用をお勧めします。GUI のページ上部にある [Help] をクリックすると、オンライン ヘルプが表示されます。オンライン ヘルプを表示するには、ブラウザのポップアップ ブロックを無効にする必要があります。

## Web GUI の機能

controller Web GUI は次の機能をサポートします。

構成ウィザード: IP アドレスおよびローカルユーザ名/パスワードの初期設定、または認証サーバでの認証 (必須特権 15) の後、ウィザードは最初の無線設定を完了するための手順を提供します。 [Configuration] > [Wizard] を起動し、次のことを設定するために、9 ステップの手順に従います。

- 管理ユーザ
- SNMP システムの概要
- Management Port
- ワイヤレス管理
- RF Mobility と国番号
- モビリティ設定
- WLAN
- 802.11 設定
- Set Time

[Monitor] タブ:

- 概要の controller、クライアント、アクセス ポイントの詳細を表示します。
- すべての無線および AP 接続統計情報を表示します。
- アクセス ポイントの電波品質を表示します。
- すべてのインターフェイスおよび CDP トラフィック情報の Cisco Discovery Protocol (CDP) のすべてのネイバーの一覧を表示します。
- 分類 Friendly、Malicious、Ad hoc、Classified、および Unclassified に基づいて、すべての不正アクセス ポイントを表示します。

[Configuration] タブ:

- Web 設定ウィザードを使用して、すべての初期操作のために controller を設定できます。ウィザードでは、ユーザの詳細、管理インターフェイスなどを設定できます。
- システム、内部 DHCP サーバ、管理、およびモビリティ管理パラメータを設定できます。
- controller、WLAN、無線を設定できます。
- controller で、セキュリティ ポリシーを設定できます。
- オペレーティング システム ソフトウェアの管理コマンド controller にアクセスできます。

[Administration] タブで、システム ログを設定できます。

# Controller のコンソール ポートの接続

## はじめる前に

基本的な動作ができるようにcontrollerを設定するには、VT-100 ターミナルエミュレーションプログラム（HyperTerminal、ProComm、Minicom、Tip など）を実行する PC にコントローラを接続する必要があります。

- 
- ステップ 1 スルモデム シリアルケーブルの一端をcontrollerの RJ-45 コンソール ポートに接続し、もう一端を PC のシリアル ポートに接続します。
  - ステップ 2 AC 電源コードをcontrollerに接続し、アース付き 100 ~ 240 VAC、50/60 Hz の電源コンセントに差し込みます。電源を入れます。起動スクリプトによって、オペレーティング システム ソフトウェアの初期化（コードのダウンロードおよび電源投入時自己診断テスト）および基本設定が表示されます。controllerの電源投入時自己診断テストに合格した場合は、起動スクリプトによって設定ウィザードが実行されます。画面の指示に従って、基本設定を入力してください。
  - ステップ 3 **yes** と入力します。CLI セットアップウィザードの基本的な初期設定パラメータに進みます。gigabitethernet 0/0 インターフェイスであるサービス ポートの IP アドレスを指定します。構成ウィザードの設定パラメータを入力すると、Web GUI にアクセスできます。これで、controller がサービス ポートの IP アドレスにより設定されます。
- 

## Web GUI へのログイン

- 
- ステップ 1 ブラウザのアドレス バーに IP アドレスcontrollerを入力します。接続をセキュリティで保護するには、**https://ip-address** と入力します。接続をセキュリティで保護しない場合は、**http://ip-address** と入力します。
  - ステップ 2 ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されたら、有効な値を入力して [OK] をクリックします。  
(注) 設定ウィザードで作成されたユーザ名およびパスワードでは、大文字と小文字が区別されます。デフォルトのユーザ名は **admin**、デフォルトのパスワードは **admin** です。  
[Accessing] ページが表示されます。
-

## Web モード および セキュア Web モード の有効化

- 
- ステップ 1** [Configuration] > [Controller] > [Management] > [Protocol Management] > [HTTP-HTTPS] を選択します。  
[HTTP-HTTPS Configuration] ページが表示されます。
- ステップ 2** Web モード (ユーザが「http://ip-address」を使用して controller GUI にアクセスできます) を有効にするには、[HTTP Access] ドロップダウン リストから [Enabled] を選択します。有効にしない場合は、[Disabled] を選択します。Web モード (HTTP) の接続は、セキュリティで保護されません。
- ステップ 3** セキュア Web モード (ユーザが「https://ip-address」を使用して controller GUI にアクセスできます) を有効にするには、[HTTPS Access] ドロップダウン リストから [Enabled] を選択します。有効にしない場合は、[Disabled] を選択します。セキュア Web モード (HTTPS) の接続は、セキュリティで保護されています。
- ステップ 4** [IP Device Tracking] チェックボックスで、デバイスを追跡することを選択します。
- ステップ 5** [Enable] チェックボックスで、トラスト ポイントをイネーブルにすることを選択します。
- ステップ 6** [Trustpoints] ドロップダウン リストから、トラスト ポイントを選択します。
- ステップ 7** [HTTP Timeout-policy (1 to 600 sec)] テキスト ボックスに、非アクティブ化により Web セッションがタイムアウトするまでの時間を秒単位で入力します。  
有効な範囲は 1 ~ 600 秒です。
- ステップ 8** [Server Life Time (1 to 86400 sec)] テキスト ボックスにサーバのライフタイムを入力します。  
有効な範囲は 1 ~ 86400 秒です。
- ステップ 9** [Maximum number of Requests (1 to 86400)] テキスト ボックスに、サーバが受け入れる最大接続要求数を入力します。  
指定できる接続数の範囲は、1 ~ 86400 です。
- ステップ 10** [Apply] をクリックします。
- ステップ 11** [Save Configuration] をクリックします。
-

# Controller Web GUI の設定

設定ウィザードでは、controller上での基本的な設定を行うことができます。このウィザードは、controllerを購入した直後やcontrollerを工場出荷時のデフォルトにリセットした後に実行します。設定ウィザードは、GUI と CLI の両方の形式で使用できます。

- ステップ 1** PC をサービス ポートに接続し、controllerと同じサブネットを使用するように IPv4 アドレスを設定します。controllerが IOS XE イメージとともにロードされ、サービスポートインターフェイスが gigabitethernet 0/0 として設定されます。
- ステップ 2** PC で Internet Explorer 10 以降、Firefox 2.0.0.11 以降、または Google Chrome を開始し、ブラウザ ウィンドウに管理インターフェイスの IP アドレスを入力します。管理インターフェイスの IP アドレスは、gigabitethernet 0/0 (別名、サービスポートインターフェイス) と同じです。初めてログインするときに、HTTP のユーザ名およびパスワードを入力する必要があります。デフォルトでは、ユーザ名は **admin**、パスワードは **cisco** です。
- サービスポートインターフェイスを使用するときは、HTTP と HTTPS の両方を使用できます。HTTPS はデフォルトでイネーブルであり、HTTP をイネーブルにすることもできます。
- 初めてログインすると、[Accessing Cisco Controller <Model Number> <Hostname>] ページが表示されます。
- ステップ 3** [Accessing Cisco Controller] ページで、controller Web GUI の [Home] ページにアクセスするために、[Wireless Web GUI] リンクをクリックします。
- ステップ 4** 最初にcontrollerの設定に必要なすべての手順を実行するために、[Configuration] > [Wizard]を選択します。[Admin Users] ページが表示されます。
- ステップ 5** [Admin Users] ページで、このcontrollerに割り当てる管理者のユーザ名を [User Name] テキストボックスに入力し、このcontrollerに割り当てる管理パスワードを [Password] テキストボックスおよび [Confirm Password] テキストボックスに入力します。[Next] をクリックします。
- デフォルトのユーザ名は **admin** で、デフォルトのパスワードは **cisco** です。またはcontrollerの新しい管理者ユーザを作成できます。ユーザ名とパスワードには、最大 24 文字の ASCII 文字を入力できます。
- [SNMP System Summary] ページが表示されます。
- ステップ 6** [SNMP System Summary] ページで、controllerの次の SNMP システム パラメータを入力し、[Next] をクリックします。
- [Location] テキストボックスでユーザ定義可能なcontrollerの場所。
  - [Contact] テキストボックスで名前や電話番号などのユーザ定義可能な連絡先の詳細。
  - SNMP 通知をさまざまな SNMP トラップで送信するには、[SNMP Global Trap] ドロップダウン リストで [Enabled] を選択し、さまざまな SNMP トラップに対して SNMP 通知を送信しないようにするには [Disabled] を選択します。
  - システム ログメッセージを送信するには [SNMP Logging] ドロップダウン リストから [Enabled] を選択し、システム ログメッセージを送信しない場合は [Disabled] を選択します。

(注) SNMP トラップ サーバは、ディストリビューション ポートから到達可能であることが必要です (gigabitethernet0/0 サービスまたは管理インターフェイスは経由しません)。

[Management Port] ページが表示されます。

**ステップ 7** [Management Port] ページで、管理ポートのインターフェイス (gigabitethernet 0/0) の次のパラメータを入力し、[Next] をクリックします。

- [IP Address] テキスト ボックスでサービス ポートに割り当てたインターフェイスの IP アドレス。
- [Netmask] テキスト ボックスで、管理ポートのインターフェイスのネットワーク マスクのアドレス。
- [IPv4 DHCP Server] テキスト ボックスで選択されたポートの IPv4 Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) のアドレス。

[Wireless Management] ページが表示されます。

**ステップ 8** [Wireless Management] ページでは、次のワイヤレス インターフェイス管理の詳細を入力し、[Next] をクリックします。

- [Select Interface] ドロップダウン リストから、インターフェイスとして VLAN または 10 ギガビットイーサネットを選択します。
- [VLAN ID] テキスト ボックスで VLAN タグの ID。VLAN タグがない場合は 0。
- [IP Address] テキスト ボックスで、アクセス ポイントが接続されたワイヤレス管理インターフェイスの IP アドレス。
- [Netmask] テキスト ボックスで、ワイヤレス管理インターフェイスのネットワーク マスクのアドレス。
- [IPv4 DHCP Server] テキスト ボックスで DHCP IPv4 IP アドレス。

インターフェイスとして VLAN を選択すると、[Switch Port Configuration] テキスト ボックスで指定されたリストから、ポートとしてトランク ポートまたはアクセス ポートを指定できます。

[RF Mobility and Country Code] ページが表示されます。

**ステップ 9** [RF Mobility and Country Code] ページで、RF モビリティ ドメイン名を [RF Mobility] テキスト ボックスに入力し、[Country Code] ドロップダウンリストから現在の国コードを選択して、[Next] をクリックします。GUI からは、1 つの国番号のみを選択できます。

(注) RF グループ化パラメータとモビリティ設定を設定する前に、必ず関連する概念のコンテンツを参照してから、設定に進むようにしてください。

[Mobility Configuration] ページが開き、モビリティのグローバル コンフィギュレーション設定が表示されます。

**ステップ 10** [Mobility Configuration] ページで、次のモビリティのグローバル コンフィギュレーション設定を参照および入力し、[Next] をクリックします。

- [Mobility Role] テキスト ボックスにモビリティ コントローラが表示されます。
- [Mobility Protocol Port] テキスト ボックスにモビリティ プロトコルのポート番号が表示されます。

- [Mobility Group Name] テキスト ボックスにモビリティ グループ名が表示されます。
- [DTLS Mode] テキスト ボックスで、DTLS がイネーブルであるかどうかを示されます。  
DTLS は、標準化過程にある TLS に基づくインターネット技術特別調査委員会 (IETF) プロトコルです。
- [Mobility Domain ID for 802.11 radios] テキスト ボックスに、802.11 無線のモビリティ ドメイン ID が表示されます。
- [Mobility Domain Member Count] テキスト ボックスで、controller 上で設定されたメンバ数が表示されます。
- Mobility Oracle としてコントローラをイネーブルにするには、[Mobility Oracle Enabled] チェックボックスをオンにします。  
(注) コントローラのみを Mobility Oracle として設定できます。 Mobility Oracle としてスイッチは設定できません。

Mobility Oracle はオプションであり、1 つの完全なモビリティ ドメインの下で、クライアントデータベースを保持します。

- [Mobility Keepalive Interval (1-30)sec] テキスト ボックスで、ピア controller に送信する各 ping 要求の間隔 (秒単位)。  
有効範囲は 1 ~ 30 秒で、デフォルト値は 10 秒です。
- [Mobility Keep Alive Count (3-20)] テキスト ボックスで、ピア controller が到達不能と判断するまでに ping 要求を送信する回数。  
有効な範囲は 3 ~ 20 で、デフォルト値は 3 です。
- [Mobility Control Message DSCP Value (0-63)] テキスト ボックスで、モビリティ controller に設定される DSCP 値。  
有効な範囲は 0 ~ 63 で、デフォルト値は 0 です。

[WLANs] ページが表示されます。

**ステップ 11** [WLANs] ページで、次の WLAN 設定パラメータを入力し、[Next] をクリックします。

- [WLAN ID] テキスト ボックスで WLAN 識別子。
- [SSID] テキスト ボックスで、クライアントに関連付けられている WLAN の SSID。
- [Profile Name] テキスト ボックスで、クライアントが使用する WLAN の名前。

[802.11 Configuration] ページが表示されます。

**ステップ 12** [802.11 Configuration] ページで、[802.11a/n/ac] チェックボックスと [802.11b/g/n] チェックボックスのいずれかまたは両方をオンにして 802.11 無線をイネーブルにし、[Next] をクリックします。

[Set Time] ページが表示されます。

**ステップ 13** [Set Time] ページで、次のパラメータに基づいて controller の日時を設定し、[Next] をクリックします。

- [Current Time] テキスト ボックスで、controllerの現在のタイムスタンプが表示されます。
- [Mode] ドロップダウン リストから [Manual] または [NTP] を選択します。  
NTP サーバの使用時に、controllerに接続されているすべてのアクセス ポイントが、使用可能な NTP サーバ設定に基づいて時間を同期します。
- [Year, Month, and Day] ドロップダウン リストからcontrollerの日付を選択します。
- [Hours, Minutes, and Seconds] ドロップダウン リストから時間を選択します。
- 時間帯を [Zone] テキスト ボックスに入力し、controllerで設定された現在の時刻と比較した場合に必要なオフセットを [Offset] ドロップダウン リストから選択します。

[Save Wizard] ページが表示されます。

**ステップ 14** [Save Wizard] ページで、この手順を使用してcontrollerで行った設定を確認できます。設定値を変更する場合は、[Previous] をクリックし、該当ページに移動します。  
すべてのウィザードについて成功メッセージが表示された場合にのみ、ウィザードを使用して作成したcontroller設定を保存できます。[Save Wizard] ウィザード ページでエラーが表示された場合、controllerの初期設定のためにウィザードを再実行する必要があります。

---